

サミット開催を契機とした北海道環境施策

北海道環境生活部 Kenichi Hasegawa
環境局環境政策課 主幹 長谷川健一

1. 環境リンケージプログラム

北海道では、「北海道洞爺湖サミット」の開催を、道民一人ひとりが環境保全に対する意識を高め具体的な活動に取り組む絶好の機会ととらえ、国、市町村、企業、関係団体などと協力し、地域から地球環境問題に積極的に取り組むこととしました。

これらの取組を、「環境サミットの気運醸成」、「環境技術の情報発信」、「北海道の環境のアピール」を3本柱とした「北海道洞爺湖サミット・環境リンケージプログラム」にとりまとめ、環境関連施策のさらなる加速・充実を目指してきてきました。

気運の醸成として、昨年10月洞爺湖町での「北海道高校生環境サミット」をはじめ、本年度においても「洞爺湖子ども環境サミット」や「こども環境サミット札幌」の開催など、次世代を担う子どもたちを対象に環境への関心を高めるための取組が全道各地で展開されました。

また、全道一斉清掃活動を通じ、きれいな北海道で来道者の皆様をお迎えする「北海道洞爺湖サミット・おもてなしクリーンアップ運動」を本年2月より展開し、全道で延べ約33万人の方が清掃活動に参加されております。

さらに、道内の様々な主体が開催する環境関連セミナーやシンポジウム等のイベントを登録していただき、多くの方が参加できるよう、広く定期的に情報発信したところ、サミットまでに92件のセミナーが実施されたほか、サミットの開催まで99日となった3月30日とサミット開催当日である7月7日に、電気を消してローソクの光の中で地球環境問題などについて考える「ガイアナイト」の取組を実施しました。

2. 北海道環境宣言

環境問題を道民の皆さんが足もとから考え、環

境に対する意識を高め、新たな行動につなげていくため、本年4月に知事から「北海道環境宣言」を発信しました。

宣言では、道民や事業者の方々が「地球を守る心」、「もったいない心」、「自然と共生する心」の3つの心を大切にし、この環境スピリッツを実践するため、二酸化炭素を一人一日1.1キログラム減らすことや、一人30本の植樹運動をすることなど、環境にやさしい8つの行動を呼びかけるとともに、本年を「環境行動元年」と位置付け、毎年7月を「道民環境行動月間」として、企業の協賛をいただきながら、全道キャンペーンを実施しました。

3. 環境総合展の開催

6月19日から21日まで、札幌ドームにおいて「北海道洞爺湖サミット記念・環境総合展2008」を開催し、全国から333団体の出展とともに、32の環境フォーラムやエコ体験広場など多くのイベントが実施され、3日間の入場者約8万4千人と目標の6万人を大きく上回ることができ、日本の最先端技術や北海道における環境への取組等を国内外に発信することができました。

4. ポストサミット対策

今後は、サミット効果を持続させていくことが大切と考えております。

そのため、低炭素社会実現に向けた意識改革の促進、環境行動をより一層促進する取組として、二酸化炭素排出量と効果的な削減方法が示される環境行動診断システムの提供、また、道民、企業等との協働の取組を継続させる仕組みづくりとして、環境にやさしい行動の総合的な指針となる環境行動計画を策定するなど、循環と共生を基調とする環境負荷の少ない持続可能な北海道づくりを目指していきます。